

授業科目(ナンバリング)	教養セミナーB(AA102)			担当教員	国際観光学科専任教員		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
学生一人ひとりが、前期で身に付けた「聞く・話す・読む・書く」といった基本的なスタディスキルを、具体的な場面で活用・実践することが出来るようになることを目指す。また2年次からの専門演習やコースの専門的な学習に向けた基礎づくりとして、ディスカッションやフィールドワーク、プレゼンテーションの基本的な手法を修得する。							①④⑤⑥ ⑦⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 観光学の学びに必要なフィールドワークの基本的な手順を理解し、説明することができる。 2年次以降の学修や将来について具体的に構想することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークノート(第8,9回) キャリアデザインシート(第2回) 		5% 5%
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 集めた情報を自分なりに整理し、保存することができる。 自分が持っている疑問の解決に向けて情報を検討することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 専門演習の決定等に向けた取組み 課題への取組み 		5% 10%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や考えを、順を追って説明することができる。 相手からの質問や意見に対して、適切に回答することができる。 疑問点を整理した上で、他者に自分の疑問を質問することができる。 関連する語句や情報、数値を盛り込みながら、与えられた課題に答える文章や資料を作成することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ディスカッション(第3,4,10,14回) スピーチ(第5回) プレゼンテーション(第9,12,13回) 授業への取組み 		10% 10% 10% 10%
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> これまで学んできたことを振り返り、今の自分に足りないものは何であるかを考えることができる。 関係する人に協力を求めるなど、自分の役割を果たそうとする姿勢で臨むことができる。 課題を発見し、課題解決の為の方法を検討することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシート(第4,8,13回) フィールドワークへの取組み 		15% 10%
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> 異なる価値観や立場を認めた上で、他者を尊重した態度や振る舞いをとることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 授業への取組み 		10%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
授業への取組み(授業中の発言やディスカッションへの参加等)は観察法で評価する。また、授業中に出した課題や、スピーチ、プレゼンテーション等の内容については、上記到達目標やルーブリック等をもとに評価し、それらを総合的に評価する形で最終評価を行う。また、課題に対するフィードバックや「振り返りシート」等へのコメントは授業中に適宜行う。							
授業の概要							
本授業では、前期までに学んだ「聞く・話す・読む・書く」といった基礎的なスタディスキルを活用・実践しながら、ディスカッションやフィールドワーク、プレゼンテーション等、課題解決に必要なスタディスキルを学修し、2年次からの専門的な学修の基礎を作っていく。また地域理解の回では、地域社会の一員として近隣地域(佐世保市内等)を調査し、地域が抱える課題や魅力を発見しつつ、地域住民との交流や地域への理解を深める。なお、15回のうち数回は、合同教養セミナーの形態で実施する予定である。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
指定図書: 外山滋比古『思考の整理学』筑摩書房 参考資料: 朝日新聞 DIGITAL 参考図書: 戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版、松本茂・河野哲也『読む・書く・プレゼン・ディベート』玉川大学出版会、竹田茂生・藤木清『知的な論文・レポートのための リサーチ入門』くろしお出版、白谷秀一・朴相権『実践 はじめての社会調査』自治体研究社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
遅刻、欠席をすることなく、必ず予習・復習をして授業に参加すること。「教えてもらう」のではなく、自ら「学ぼう」という積極的な姿勢が重要である。また、教養セミナー担当教員には、学修・生活・進路等、様々な事項に関して、気軽に相談してもらいたい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	学びの振り返り①	前期の学びや夏期休暇を振り返るとともに、成績表の確認と後期科目の履修計画の見直しを行う。「ルーブリック評価・読書管理システム」の必要事項を入力する。大学生が守るべき研究倫理について学ぶ。	予：前期学習したスタディスキルを確認する。 復：履修登録を見直す。
2	学びの振り返り②	「ルーブリック評価・読書管理システム」やキャリアデザインシートを活用して担当教員と個別面談を行い、後期の目標を設定する。	予：後期の目標を考える。 復：「ルーブリック評価」の最終評価を行う。
3	ディスカッション①	グループやチームで学ぶ意義を理解し、ディスカッションやディベートの方法を理解する。また、プレストやKJ法など議論の整理方法を学ぶ。	予：ディスカッションやディベートについて調べる。 復：プレストやKJ法の復習
4	ディスカッション②	指定された課題の解決に向けて、情報収集してきた内容をもとにディスカッションを行い、その成果をプレストやKJ法を用いて整理し、発表を行う。	予：指定された課題に関する情報収集を行う。 復：振り返りシートの記入
5	地域理解①	自分の出身地に関する情報を纏め、各自が出身地の魅力についてスピーチを行う。また地域を知ることの意義について考え、次週以降に行うフィールドワークの方法を理解する。	予：自分の出身地に関して情報を収集する。 復：フィールドワークの方法について復習しておく。
6	地域理解②	大学の近隣地域に関する歴史や地理的な特徴を踏まえた上で、調査対象を検討する。	予：大学の近隣地域に関する情報を収集する。 復：情報の精査
7	地域理解③	「地域の課題を解決し、地域が持つ魅力を活かすためには」という課題に対し、事前に収集した情報をもとにフィールドワークでの調査内容や調査先を選定する。調査先へのアポイントメントや周辺情報の収集など、調査計画を立てる。	予：調査対象地域の情報を各自収集する。 復：調査先及び周辺情報について収集しておく。
8	地域理解④	現地へ赴き、観察調査や地域住民への聞き取り調査を行う。フィールドワークノートに調査結果を整理する。	予：調査計画に目を通し、調査内容を確認する。 復：振り返りシートの記入
9	プレゼンテーション①	フィールドワークで得られた情報を整理し、プレゼンテーション資料をグループで作成する。	予：プレゼンテーションのアウトラインを考える。 復：資料の完成
10	ディスカッション③	大学生活の過ごし方に関わる講話を聞き、グループごとにディスカッションを行う。次週以降の専門演習決めに向け、説明会の要領を確認する。	予：講話のテーマについて調べる。 復：講話のテーマに関する新聞記事を読む。
11	専門演習について	2年次に所属するコースや専門演習の内容を確認し、自分の適性を見極め、所属するコースや専門演習を選ぶ。	予：コースや専門演習について確認しておく。 復：専門演習決定に向けた今後のスケジュールを確認し、専門演習を決定する。
12	プレゼンテーション②	セミナー内でプレゼンテーションを行い、合同プレゼンテーション大会の出場グループを決定する。	予：割り振られた役割を果たし、リハーサルを行う。 復：プレゼン資料を見直す。
13	プレゼンテーション③	合同プレゼンテーション大会を行う。セミナーで選ばれたグループがプレゼンテーションし、聴講する側はプレゼンテーションに対する質問、評価を行う。	予：プレゼンテーションスキルを確認しておく。 復：振り返りシートの記入
14	ディスカッション④	大学生活の過ごし方に関わる講話を聞き、グループごとにディスカッションを行う。	予：講話のテーマについて調べる。 復：講話のテーマに関する新聞記事を読む。
15	授業の振り返り	大学生活1年間を振り返り、自身の成長について考える。また定期試験や春期休暇、4月のORスケジュール等について確認する。	予：4月に立てた大学生活の目標を思い出しておく。 復：定期試験以後のスケジュールを再度確認する。

授業科目(ナンバリング)	教養セミナーB(AA102)			担当教員	浦 秀美、足立 孝子、中村 尚生、 久田 貴幸、裴 考承、山下 彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
大学の学びに必要な学びの基礎力と学修態度を身につけることが、本セミナーのねらいである。人間尊重の精神の育成をはじめとするディプロマポリシーの到達に向け、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを通して、社会人として必要な幅広い教養的知識を有し、実践することができるようになることを目指す。さらに、実際の福祉現場で活躍するゲストスピーカーによる講話などを通して、社会福祉分野への関心を高め、自身のキャリアについてのイメージを高める。							①④⑤⑥ ⑦⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自身のキャリアイメージを具体的に説明できる。				振り返りシート	10%	
情報収集、分析力	テーマに合わせて、必要な文献を適切に検索できる。 集めた情報を自分なりに整理し、保存することができる。				授業への取組み	15%	
コミュニケーション力	他者の発言の意図や論点を捉えようと静かに他者の発言に耳を傾けることができている。 場面や聞いている人に応じて言葉遣いを使い分け、自分の意見や考えをわかりやすく述べるができている。 文章全体の構造を捉えた上で、書かれた文章の意味や筆者の意図を捉えることができている。 文章作成ルールを意識しながら、出された課題に応じた文体や体裁の文章を書くことができている。 自分の疑問を整理した上で、他者に質問することができる。				授業への取組み 振り返りシート	20% 20%	
協働・課題解決力	他者と協働して物事に取り組む意欲をもち、集団の中での自身の役割を果たすことができる。				授業への取組み	25%	
多様性理解力	自分とは違う意見や考えに耳を傾け、お互いの立場を尊重した言動や振る舞いができる。				授業への取組み	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
基本的には、プレゼンテーションやディスカッション、セミナー毎に出される課題への取組みを含めた授業への取組み70%、振り返りシートの内容30%の計100%にて評価する。授業への取組みのうち、発表や聞く態度などについては、上記到達目標に基づいて観察法で評価し、その他セミナー毎に授業中に指示される課題、レポート、プレゼンテーション等については、上記到達目標やルーブリック等を基に評価する。ポートフォリオを通して課す振り返りシートについては、ポートフォリオを通じて教員のコメントを付し、その他の課題のフィードバックは授業内にて行う。							
授業の概要							
この授業は、学生として身につけておかななくてはならない「聞く・話す・読む・書く」ことの基礎的なスキルを学ぶ場であり、今後の様々な学修における学びへつながる導入の場でもある。学生によるプレゼンテーションやディスカッション、セミナー間交流など多様な形式で授業を展開する。加えて、福祉分野等から講師を招聘し、福祉の専門家として必要な福祉マインドの基礎を認識し、自身のキャリアについての具体的なイメージを醸成する。なお、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。クラス毎に、必要に応じて資料を配布する。 参考図書：戸田山和久『論文の教室 レポートから卒論まで』NHK BOOKS 松本茂 ほか『読む・書く・プレゼン・ディベート』玉川大学出版部 参考資料：朝日新聞 DIGITAL 指定図書：外山 滋比古『思考の整理学』ちくま文庫							

授業外における学修及び学生に期待すること

遅刻、欠席をすることなく、必ずしっかり予習・復習をして授業に参加すること。「教えてもらう」のではなく、自ら「学ぼう」という積極的な姿勢が非常に重要である。また、学生同士においても、教員に対しても積極的に交流を図り、特に、教養セミナー担当教員には、学習・生活・進路等、様々な事項に関して、気軽に相談してもらいたい。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	学びの振り返り オリエンテーション	前期の成績、読書記録、ループリックなどを見ながら面談を通して振り返る。スタディスキルを確認し、前期に設定したキャリアデザインシートを修正する。	予：前期の成績 復： <u>振り返りシート①</u>
2	社会福祉について知る 文献検索	社会福祉の領域一担当教員の専門領域や自身に関心をもった社会福祉のテーマについて調べ、学修する。	予：文献検索の仕方について復習しておく 復：授業内容を振り返る
3	社会福祉について知る プレゼンテーション	テーマについて調べ、プレゼンテーション資料を作成する。	予：必要な文献・資料集め 復：プレゼンテーション資料等を完成させる
4	ゲストスピーカーによる講話 事前学習①(※全体会)	福祉の現場で活躍するゲストスピーカーの講話を聴講する重要性を学び、聴講時の意義や留意点を理解する。聴講したいゲストスピーカーの希望を調査する。	予：自身の関心領域についてイメージしておく 復：聴講希望調査の提出
5	ゲストスピーカーによる講話 事前学習②	ゲストスピーカーが勤務する福祉の現場について調べ、聴講時のルールやマナーについて確認する。	予：福祉の現場調べ 復：聴講の準備を行う
6	ゲストスピーカーによる講話	実際に社会福祉の現場で活躍するゲストスピーカーの講話を聴講する。(ゲストスピーカー・実務家)	予：事前学習の内容をまとめておく 復： <u>振り返りシート②</u>
7	ゲストスピーカーによる講話の振り返り①(お礼状作成)	ゲストスピーカーの講話で学んだ内容について整理し、お礼状を作成する。聴講時の、自身や周囲の態度についても振り返りを行う。	予：お礼状の作成 復：お礼状を完成させる
8	ゲストスピーカーによる講話の振り返り②(資料作成)	ゲストスピーカーの講話をもとに、福祉現場の魅力を伝えるプレゼンテーション資料を作成する。	予：資料作成の情報整理 復：資料の作成
9	ゲストスピーカーによる講話の振り返り③(資料作成)	ゲストスピーカーの講話をもとに福祉現場の魅力を伝えるプレゼンテーション資料を作成する。	予：資料の作成・完成 復：プレゼンテーションに向けての準備
10	ゲストスピーカーによる講話の振り返り④ プレゼンテーション大会 (※全体会)	合同でのプレゼンテーション大会を行う。各グループでプレゼンテーションし、聴講する側もプレゼンテーションに対する質問、評価を行う。	予：プレゼンテーション資料の見直し 復： <u>振り返りシート③</u>
11	スタディスキルの確認①	プレゼンテーション大会の内容を振り返る。セミナー内交流会の企画案を作成し、準備を行う。	予：発表資料の準備、プレゼンテーション 復：授業内容を振り返る
12	スタディスキルの確認②	セミナー内交流会を実施する。	予：交流会の準備を行う 復： <u>振り返りシート④</u>
13	キャリアイメージ① 2年生に向けて	1年間を通して学んだことを振り返り、セミナー内で共有する。また、履修手引きを用いて2年生以降の資格修得及び進路を具体的に検討・イメージする。	予：履修の手引きを読む 復：自身の進路について考えをまとめる
14	キャリアイメージ② 専門基礎演習について (※全体会)	2年次に所属するコースや専修課程、専門基礎演習ゼミの情報に関するメモをとりながら聞き、自分の適性を見極め、専門基礎演習ゼミを選ぶ。	予：自身の関心領域についてイメージしておく 復：各ゼミの特徴等を整理する
15	キャリアイメージ③ 今後の進路について	自身の関心のあるテーマについて調べ、取得したい資格や今後の進路についてのイメージアップを行う。必要に応じて個別面談を行い、自身の今後の進路を明確にする。	予：自身の関心領域について調べる 復： <u>振り返りシート⑤</u>

授業科目(ナンバリング)	教養セミナーB (AA102)			担当教員	健康栄養学科 専任教員		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>学生は、主体的に勉学に取り組むことが何よりも重要である。そこで、大学での教育や健康栄養学科の勉学について自覚し、勉学を実行する能力を身に付けることを目標として、読解力、思考力、自身の考えを伝えるための文章作成能力、プレゼンテーション能力などの基本的能力を身につける。また、これらの能力を統合し、社会で活躍するために必要な人間尊重の精神の涵養や一般的な常識と礼儀を養うことを目的とする。さらに、教養セミナーAで修得したことを基礎として基本的能力の向上に努める。</p>							① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑩ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	設定したテーマや課題などに基づき、文章作成能力やプレゼンテーション能力を身につけることができる。				受講者の発表	10%	
コミュニケーション力	セミナー内のメンバーと共に主体的に取り組む、設定したテーマ・課題の内容に関心を持ち、自学自習の習慣を身につけることができる。また、収集した情報、必要な書籍・文献を理解し、その内容を他の学生にわかるように説明できる。				授業態度・参加度 授業内レポート 授業外レポート 受講者の発表 演習	10% 10% 10% 10% 10%	
協働・課題解決力	設定したテーマや課題などに基づき、セミナー内で自分の考えを伝え（ディスカッション）、力を合わせ取り組むことができる。				授業内レポート 授業外レポート 受講者の発表 演習	10% 10% 10% 10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には試験は実施せず、課題に対するレポートや取り組み等について総合的に評価する。 ・課題レポート（授業内・外40%）は、提出されたレポートの構成や適切な表現等について、個別にフィードバックし評価する。 ・授業の取り組み（授業態度・授業への参加度を含む10%）は、セミナーに対する積極性等について評価する。 ・発表（プレゼンテーション30%）は、発表に対する積極性や貢献度等について評価する。 ・演習（20%）は、提出物の内容で評価し個別にフィードバックする。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・下記①～⑤を適宜取り入れて授業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①勉学への取り組みについてのオリエンテーション ②少数人数にて講義、ディスカッション、見学など ③複数のセミナーが合同で行う、特別講演や課題 ④学生生活や勉学などについて、個別の面談や相談 ⑤セミナー全体での特別講演 ・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。 							
教科書・参考書							
教科書・参考書・指定図書：教養セミナーAおよびホスピタリティとSDGsで使用する教科書、配付資料など。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・後期は他の学生と共同作業でひとつのことを行う内容になるので、前期に学んだこと、体験したことを活かせることを期待する。 ・授業内容の中で、社会に出て必要となる物事の進め方や他人を思いやる気持ち、前期同様、自学自習の習慣を身につけることを期待する。 ・授業回数の3分の2（10回）以上の出席を以て、評価対象者とする。 ・特別な事情を除き、無許可での途中退席は不可とし、私語を慎み、携帯電話の使用は厳禁とする。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	履修指導・生活指導	後期履修に関する留意などの指導、一般的な生活指導	・講義概要（シラバス）、履修の手引き、学生便覧を熟読する。
2	個人面談①	①前期学習結果や大学生活に基づく個人的指導	・前期の反省をする。 ・面談前に「ホスピタリティ・ルーブリック」の自己評価を終え、面談後に最終評価を行う。 ・後期目標を設定する。 ・「読書管理」システムの入力
3	個人面談②	②「ホスピタリティ・ルーブリック」の自己・最終評価	
4	個人面談③	③「書物からの学び」の取り組み	
5	セミナー全体での学習	セミナー全体での特別演習	・演習内容を把握しておく。終了後は感想文や課題を提出する。
6	セミナー別学習①	セミナー単位で検討してテーマを設定して、以下の項目を行う。 ①資料収集 ②結果などの情報整理 ③表現方法の検討	・テーマに関する書籍、文献等を検索し、熟読する。 ・内容により実施計画や担当者を決め、時間内・時間外を使用し適宜進める。 ・情報整理に必要なパソコン操作を習得する。
7	セミナー別学習②		
8	セミナー別学習③		
9	セミナー別学習④		
10	セミナー別学習⑤		
11	セミナー別学習⑥		
12	プレゼンテーション準備①	プレゼンテーションの資料作成	・プレゼンテーションに必要な資料や書籍、文献などを検索・準備し、熟読する。
13	プレゼンテーション準備②		
14	プレゼンテーション①	セミナーごとの発表	・発表に備え、読み合わせなどしておく。
15	プレゼンテーション②		・質問に備え、その対応を考えておく。

注) 授業テーマは予定である。状況によっては変更・追加することがある。

(学科専任教員：古賀、熊井、廣田、林、松尾、山口、小田、川内、藤井、宮原、吉村、射場、菊地)

授業科目 (ナンバリング)	教養セミナーB (AA102) (薬学科)			担当教員	薬学科教養セミナー担当教員 (欄外※)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>大学で学ぶ現在、また将来医療に携わる上でも、自分で考え、評価し、行動するとともに、ホスピタリティの概念を修得することが重要である。薬学部における教養セミナーB では、高等学校までの受け身の教育から脱却して、一人ひとりが主体性を持って取り組み、大学型の学修方法を自覚し、それを着実に実行できる能力を身につけること、また薬学生の幅広い進路と各職業の社会的役割を理解し、学修に対するモチベーションを向上させることをねらいとする。</p>							⑥⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	大学における学び方を説明できる。薬学生の幅広い進路と各職業の社会的役割を説明できる。				レポート	10%	
情報収集、分析力	題材の要点を抽出できる。文献、書籍から情報を収集し、適切にまとめることができる。				プロダクト 課題発表	10% 5%	
コミュニケーション力	抽出した題材の要点を、自分の言葉で表現できる。決められたテーマについて議論し、相互に意思疎通ができる。				授業態度	40%	
協働・課題解決力	収集した情報、必要な書籍・文献を理解し、その内容をグループで討議し、まとめることができる。				プロダクト 課題発表	15% 10%	
多様性理解力	主体性を持って学ぶ大学型の学習方法を自覚できる。薬学生の幅広い進路と各職業の社会的役割に関心を持つことができる。				レポート	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業態度 (スモールグループディスカッション(SGD)における発言頻度、積極性、取り組み姿勢)、プロダクト (テーマ別学習)、課題発表 (テーマ別学習)、レポート (早期体験学習等) などを総合的に判断する。提出レポートの評価はポートフォリオを通じてフィードバックされる。</p>							
授業の概要							
<p>教養セミナーB では、教養セミナーA の基本スキルトレーニングで培った能力を更にスキルアップさせることを指向してテーマ別学習を実施し、調査した結果は、班別にてプレゼンテーションを行う。また、薬学生の幅広い進路と各職業の社会的役割を理解し、学修に対するモチベーションを向上させるために、病院、薬局および行政現場を見学する早期体験学習のフィールドワークを実施する。また本学OBを招聘することにより、具体的な職業に対するイメージ及びモチベーションの向上を狙いとする。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分である。</p>							
教科書・参考書							
資料を配布する。セミナーごとに、独自の資料を用いる場合もある。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>繰り返しの基本スキルトレーニングをしっかりと積み重ねて得た力を基盤として、また、国家資格である薬剤師の社会的責任を理解し、薬学生としての自覚を持つことによって、その他の学習にも臨んでもらいたい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	後期教養セミナーについて	夏休みのふり返りと後期教養セミナーで目指すことを理解する。テーマ別学習の進め方について議論する。 後期履修の指導（全員）	履修予定表を作成しておく	
2	早期体験学習 事前学習	早期体験学習に向けての心構え、早期体験学習で何を学ぶかについてのオリエンテーション（主担当：大磯・神田・長岡）	早期体験学習について、自分なりに想像してみる	26, 69
3	早期体験学習 病院・薬局見学、 行政現場見学	班に分け、ローテーションにより、病院・薬局見学と行政現場をそれぞれ見学する。（主担当：大磯・早川・室・神田・長岡）	早期体験学習について、自分なりに想像してみる	1, 2, 3, 4, 5, 8, 9, 26, 885, 886
4				
5				
6	早期体験学習 ふり返り SGD	早期体験学習についてふり返り SGD を行い、今後につなげる（主担当：大磯・早川・室・神田・長岡）	早期体験学習について印象に残ったことを思い返してみる	1, 2, 3, 4, 5, 8, 9, 26, 885, 886
7	各自治体の福祉の取り組みに関する調べ物学習およびSGD	各市町村の自治体が行っている福祉政策、活動について調べ、SGDを行い、今後につなげる（主担当：出口・神谷）	福祉の現状について、自分なりに調べてみる	1, 2, 3, 4, 5, 6, 886
8	仕事とホスピタリティ	仕事に必要なホスピタリティを本学 OB（病院・薬局・行政等）、外部講師から講演・談話形式で学ぶ（主担当：神谷）	manabaの「振り返りと課題」に記入し、提出	64-67
9	テーマ別学習— 1	情報収集、SGD 方式により情報交換、軌道修正、行動予定の確認（全員）	自分が興味のあるテーマを考えておく	57, 58, 59, 60 PRE149-151, 154-158
10	テーマ別学習— 2	情報収集、SGD 方式により情報交換、軌道修正、行動予定の確認（全員）	テーマ別学習内容を発展させる	57, 58, 59, 60 PRE149-151, 154-158
11	テーマ別学習— 3	情報収集、SGD 方式により情報交換、軌道修正、行動予定の確認（全員）	テーマ別学習を継続する	57, 58, 59, 60 PRE149-151, 154-158
12	テーマ別学習— 4	テーマ別学習まとめとプレゼンテーションの準備（全員）	プレゼンテーションについて話し合った内容を振り返ってみる	57, 58, 59, 60 PRE149-151, 154-158
13	テーマ別学習— 5	テーマ別学習まとめとプレゼンテーションの準備（全員）	改善点について振り返ってみる	57, 58, 59, 60 PRE149-151, 154-158
14	テーマ別学習・ 発表会	全体で発表会を行う（全員）	プレゼンテーションのポイントを確認しておく	57, 58, 59, 60 PRE149-151, 154-158
15	違法薬物乱用防止について	違法薬物乱用防止に関する講話（山口拓）	違法薬物に関するニュースなどを調べてみる。	14/92-93

注) No. 1-15 は授業の概要を示したもので、講義の順番は変更されることがあります。

※宇都拓洋・岸原健二・小林秀光・高井伸彦・早川正信・室高広・山口泰史・神谷誠太郎・田中宏光・藤井佑樹・藤木司・山田耕平・石原知明・大久保伸哉・川寄達也・倉岡卓也・末廣真理恵・縄田陽子

*到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリ SBO 番号/項目対応表を参照して下さい。